

教育委員会会議の概要（令和5年8月定例会）

- ◆ 日 時 令和5年8月23日（水）午前9時00分から午前10時59分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	欠 席

◆ 会議概要

- 1 開 会
- 2 議事録承認 6月定例会
- 3 議事録署名委員の指名 川 又 委 員

4 報 告 事 項

（1）令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

（学びの連携推進室長 報告）

資料に基づき報告

山 田 委 員 全国平均には私立学校は含まれず、公立学校だけなのか。

学びの連携推進室長 公立学校のための平均になっている。

山 田 委 員 例えば大都市、東京など大きなところは結構な数の学生が私立の中学校に行くと思うが、その人たちは平均には入っていないということか。

学びの連携推進室長 ここには入っていない。

山 田 委 員 大都市では、私立中学校に行っている子も多いと思われるので、この平均値を全国平均として比較して大丈夫なのかという気がするが、どうお考えか。

学びの連携推進室長 全国の私立学校がこのテストをどれくらい受けていて、私立学校の平均点がどれくらいかというところは、私たちのほうで把握していない。今回文部科学省から発表されているデータは公立学校の結果である。

山 田 委 員 今年はどうであれ、将来的に私立学校が結果に含まれていないことは頭に入れてお

いたほうがいいのではないかという気がする。小学校は全国平均と大体同じで、中学校になると全国平均を全部上回るようなイメージがあって、そういうことも影響しているのではないかという気がした。そのデータの使い方や見方は気をつけたほうがいいのではないかと思う。

後藤委員 細かく調べていただき、なるほどと思った。12ページの質問10の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」というところで、小学校7割、中学校も大体7割くらいが肯定な回答をしているが、残り3割は相談できないという回答になるかと思う。その3割は、先生や学校にいる大人だけではなくて、保護者には相談できるのか。それとも保護者にも全く相談できないのかというところが見えないので、そこがとても気になった。その3割は保護者や家庭の人に相談できているから、ここに丸をつけないのであればよいのだが、誰にも相談できない子どもがもし3割もいるのだとしたら、それはとても問題だと思うので、ここはもう少し丁寧な聞き取りが必要なのではないかと思った。

また、質問13の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」というところでは、仙台市よりも全国のほうが楽しいという回答が多い。そこはもっと見習うべきであり、大切な質問だと思う。今学校で抱えている課題などを考えても、いろいろな子どもたちがいて、自分と違う意見があって、その意見を聞くのが楽しいというように受け取れるようなアプローチはとても必要だと思うので、この数字がもっと上がってくることを期待したいと思った。

学びの連携推進室長 このデータを学びの連携推進室でまとめているが、各課と共有しながらそれぞれの課で生かせるところを検討していきたいと思う。

花淵委員 資料の28ページ、(11)小学校教育と中学校教育の連携の質問だが、これは全国を大きく下回っている。特に2番目は小学校・中学校ともに全国より30%以上落ち込んでいる。小中連携が図られていないという結果が、ここに如実に出ていると思った。このあたりも今の仙台市の教育としては課題であると思った。それぞれ小学校のことは小学校で何とかしよう、中学校のことは中学校で何とかしようというのではなくて、既に9年間を見通しての連携をすべきである。郡部のほうに行くと1小1中という市町村もたくさんあるので、仙台市はそういうところと違う部分もあるかと思うが、そのあたりについて何か分析はしているのか。

学びの連携推進室長 小中連携については、これまでも進めてきているところである。各学校で小中連携を図りながら情報交換等を進めてきたが、コロナの状況で若干停滞している部分はあった。学びの連携推進室でも小中連携を積極的に進めるような働きかけを今後もしていきたいと思う。子どもたちがスムーズに接続できるように、そのような取組をこれからも検討していきたいと思う。

花淵委員 秋に、学びの連携推進室で小中学校の授業の提案を行うと思う。近隣の中学校であれば小学校の先生に来てもらったり、小学校でやるときには近隣の中学校の先生に来てもらったりするなど、そういった形を呼びかけてもらうことは可能だと思うので、そのようなところから始めてはどうかと思う。

学びの連携推進室長 ご意見を活かしながら進めていく。

梅田委員 3ページで、小学校の国語で記述式の正答率が他の地域より落ちているという説明があった。書いて表すことに関しては非常に課題が残るということが、毎年指摘されていたように思っている。そのあたりについて、何か具体的に全市で取り組んでいる

ことがあれば教えていただきたい。

今回、26、27 ページで I C T 機器や、タブレットの活用について調査しているが、子どもたち一人一人に合った使い方をしているか、どのくらい活用しているかという質問のうち、13 番の不登校児童生徒に対する学習活動等の支援については、毎日活用しているという方は全国平均より落ちているとしても、ほかは全国平均を上回るような回答だと思うが、特別な支援を要する児童生徒や外国人の児童生徒については、全国平均を下回っている回答が多いと思う。本来であれば、せっかくタブレットが 1 人 1 台配置されているので、子どもたちが単純に授業中に調べ学習に使う等だけではなく、一人一人の状態に合った活用の仕方ができるように進めていただけたらと思う。この点について何か今後のお考え等があればお聞かせいただきたい。

学びの連携推進室長 無回答率については、私たちもとても意識して見ている。問題を解くまでいかない、回答ができない部分も増えてきているので、先ほども話したように、仙台市確かな学力研修委員会でこの分析を進めている。その分析の中でどうして無回答だったのかというところも先生方は考えて、このような形で指導するとできるようになるのではないかという、課題改善についてもプランをつくりながら各学校の先生方に周知している。さらに、文書で周知をした後、年度末に近づいた頃にオンラインで研修会を行い、昨年度も 400 名参加していただいた。その中でも課題改善の取組を進めている。

そのような取組を毎年行っており、恐らくすぐには結果が出ないと思うが、続けていくことで、課題が少しずつ解消してきている部分があるのではないかと感じている。

記述式の解答の書き方についても指導の改善を進めている。仙台市確かな学力研修委員会の中で、どのように考えていくと書くことができるのか、どのように書くとよいのかということも検討を進めている。

それから、27 ページの I C T の活用についてである。お話しいただいたとおり、様々な子どもたちがいるので、その子どもたちに合わせた対応が求められているところである。教育指導課とも連携をして、今後このような対応についても検討していきたいと考えている。

梅 田 委 員 記述式等の回答に関して、書き方を教えるという話ではなく、子どもたちが自分の考えをどうやったら表すことができるのか。それを特に言葉で表すことと同じように、文章で表すことはやはりトレーニングが必要だったり、表したいことを自分でまとめたり考えたりということが重要になってくると思う。もちろん考えていると思うが、そのあたりを含めて今後も取組を続けていただけたらと思う。

川 又 委 員 10 ページと 11 ページの正答数分布グラフに関して、小学校国語、小学校算数、これは一山あって平均が 60 点ぐらいの分布になっていて、この一山のこういう形はいろいろなアンケートや試験など統計データを取るといつも出てくる自然な分布なのだが、それが中学校にいくと、国語は一山の形でほぼ同じなのに、中学校数学が平らな分布になって、平均が小学校の 60 点から中学校だと 50 点くらいになるという、非常に特別な分布である。どうして分布がこんなに変わってしまうのかというところの分析をお願いしたい。

それから、中学校の英語は数学よりもさらに特別な分布で、低いほうに山があつて、あと全体としては平らな分布ということで、これも普通の統計の分布を取ったときに自然に現れるものと少し異なる形になっている。小学校の英語という点数の分布があれば、もしかするとこれが一山になっていて、中学校になると例えば数学や英語はか

なり苦手意識が生まれてきて平らな分布になるのではないか。

それから、昨年も似たようなことがあったように記憶するのだが、理科も数学と同じような傾向で、小学校のときには一山あって、中学校になるとそれが一転平らな分布になっていて、非常に特別な状況である。このあたりを昨年も分析されたのか。

学びの連携推進室長 このグラフだが、横軸を見ていただくと正答数になっている。恐らくふだんの正規分布の形は点数になっているが、このグラフに関しては何問当たったかという形になっている。問題に対する難易度が、例えばテストだとこの問題は5点、この問題は3点というような形で分かれているが、このグラフでは難易度を考慮せず何問当たったかという形になっているので、きれいな正規分布にならない場合ももしかしたら出てくるかもしれないと考えている。

確かに数学は低い状況になっているし、英語は左に寄っているグラフになりつつあるので、問題の難易度によって点数が変わってくると、また若干変わってくるのかと考えている。

川 又 委 員 今年もまた同じような分析をお願いしたいと思うが、小学校から中学校で学年が移ったときの科目の苦手意識がかなりあるのかと思う。小学校までは理科や算数が好きだったが、なぜか中学校になると理科、数学が苦手になる傾向があるので、同じように英語もそのような傾向があるのかもしれない。そういうところも含めてご検討をお願いしたいと思う。

数学で横軸が何問正解になっているかということで、1問当たりの点数が違うというご説明だったが、そうするとグラフにするとときに横軸の性質が均一ではないという話になってしまって、グラフ化することがあまり適当でないということになってしまふ。ぜひとも横軸では1問は何点、0問から14問まで均一に刻むような試験の仕方をしないといけないというのが本質かと思う。

学びの連携推進室長 この全国学力テストに関しては点数を出すことが目的ではない。苦手な部分を確認するのが目的なので、この問題が何点という形にはなっておらず、当たったか間違っただかという形になっている。

川 又 委 員 そうすると、0問から14問まで等間隔に並べることはできないような試験をしていることになるので、それをあたかも等間隔であるようにグラフで書くと、教育的にもよくないと思う。小学校の算数でも横軸は均質なものを並べている。全国的な試験のつくり方の根本的なところかと思うが、それを解読して何か分析ができるようにしていただければと思う。

5 付 議 事 項

第 16 号議案 令和6年度仙台市立鶴谷特別支援学校高等部入学者選考方針について

(特別支援教育課長 説明)

資料に基づき説明

花 淵 委 員 昨年度の倍率はどのくらいだったのか。

特別支援教育課長 倍率として出しているわけではないが、昨年度、募集定員20名に対して受験者は20名ということになっている。なお、20名の内訳としては、鶴谷特別支援学校中学部からの受験者が9名、中学校からの受験者が11名となっている。

原案のとおり決定

第 17 号議案 令和 4 年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
(総務課長 説明)

資料に基づき説明

後藤委員 38、39 ページに、学校における食育の推進など、学校給食に対する取組の記載がある。先日も教育文化講演会で食というものはとても大切だという講師の先生のお話を伺った。食べることは子どもたちにとってとても大きなことで、仙台市では一生懸命施策を行っており、予算も使っていただいているが、学校給食で前を向いて一人一人机に座って個々で食べているという状況がいまだに続いている学校もある。栄養を体に取り入れることも大切だが、みんなで食べることが心を育むという食育の観点に立って、今年度はそろそろ机を昔のように合わせて班になってみんなで食べるという給食の形を実施するように、お声がけいただければと思う。

もしかしたら各学校ごとに校長の判断で行っているところもあるのかもしれないが、ほとんどの学校は教育委員会からの指示を待っていると思う。教室で給食を食べるのを見ていると、せっかくこれだけ予算を使っておいしい給食を一生懸命出してくださっているのだが、子どもにとって家庭の中で見慣れた食事ではない、初めて見る食事というものは、友達が食べているのを見ないとなかなか箸が進まない。何か怖いのだと思う。見知らぬ食材で、自分の家とは違う調理方法だったとしても、グループになって食べれば、周りの友達が食べているのを見て食べる。それはとても大切な教育だと思う。食事というものがどれほど大切かという声がけを、もう一度しっかり考えてご指導いただいたほうが、こういった食育に関する施策は本当の意味で進んでいくのではないかと思う。

総務企画部長 学校での給食について、黙食は既に行っていないが、グループごとに食事をするという形は取っていない。幾つか学校を回って見ている中で、学校からはコロナ禍に比べたら大分会話は増えてきたような気がするというお話はいただいている。ただ一方で、まだコロナもくすぶっている部分もあるので、この状況も確認し、また文部科学省等の通知も確認しながら、ただいまご意見いただいた点について検討していきたいと思う。

副教育長 総務企画部長からも話があったとおり、学校給食で黙食は必要ないとしている。学校の判断で、班ごとやグループごとに楽しく食べるということもあると認識している。この委員会でも食べることが大事だというご意見をいただいている、今年度健やかな体の育成プランを策定していることもあるので、改めて学校の状況も把握しながら、子どもの発育につながるような学校給食の在り方について、今後深めていきたいと思う。

梅田委員 給食に関して、世の中はコロナ前にほぼ戻りつつある。実際に新型コロナウイルスの患者が減っているわけではなくて、夏になって増えたりしていたと思うが、大学でももう一切食堂のパーティションはなくなったし、黙食というのもない。一時期はパーティションをたくさん設置して、黙食と書いてあったが、そういうこともなくなったので、学生で感染する人が多少出ているのかもしれない。街を見てもやはり元に戻っている感じで、宴会もたくさんあるという状況の中で、もちろんリスクがあるのは分かるが、学校だけがかたくなに前を向いて食べるというのは、おかしいという気が

する。そのあたりはぜひ柔軟な対応をお願いしたい。中には怖いという子もいるかもしれないので、そのあたりの配慮は必要かと思うが、柔軟な対応が各学校でできるように、学校に通知していただくなどしていただけるとよいかと思った。

58 ページに特別支援学級パワーアップサポート事業の実施というところがあって、これは以前から行われていたことで、特別支援学級の新たに担任になられた先生方や経験の浅い先生方に対して、もう退職なさったベテランの先生方がいろいろなアドバイスをしたり、授業の指導をしたりするなど、とてもいい事業だと思っている。今回ここに通級指導教室のことが少し書いてあって、仙台市内の学校で研修会等をさせていただくときに、校長先生方からも通級指導教室の担当者の専門性について非常に危惧しているという話をたくさん伺っている。通級指導教室は特別支援学級ほど長い歴史があるわけでない。特に発達通級指導教室については新たな取組で、特別支援教育が始まってからのスタートなので、指導できる教員がたくさんいるわけではない状況である。お辞めになった先生方で、まだまだパワーのある先生方がたくさんいらっしゃるの、さらにこの事業を充実させていただきたい。多分国はこれから通級指導教室を一層増やしていくということに向かっていくと思う。そのときに専門性をどう担保するかというのは非常に重要で、特に通級指導教室の担当教員を育成する大学があるわけではないので、そのあたりも含めて、実際今担当している先生方には、お辞めになった後もぜひご活躍いただいて、各学校からの求めに応じて指導できるような仕組みを充実させていただけるといいと思う。名前も特別支援学級・通級指導教室などに変更し、やっていることをアピールしつつ、一層力を入れていただけたらと思う。

次長兼学校教育部長 特別支援学級パワーアップサポート事業については、昨年度策定した「特別支援教育推進プラン 2023」の中でもしっかり取り組むテーマとして掲げていた。今お話しいただいた、通級指導教室の部分については、定数の問題などこれからいろいろ動きがあると思うので、そういったあたりをしっかりと見ながら、教員の質の向上というところも、これまでの知見を生かしながら努めていきたいと思う。

原案のとおり決定

第 18 号議案 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について

(1) 令和 4 年度決算の認定について

(総務課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

(2) 工事請負契約の締結に関する件

(仙台市立片平丁小学校校舎及びプール並びに仙台市片平児童館増改築工事)

(参事兼学校施設課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

- (3) 工事請負契約の締結に関する件（仙台市立中山小学校校舎等増改築工事）
（参事兼学校施設課長 説明）
資料に基づき説明
原案のとおり決定
- (4) 工事請負契約の締結に関する件（仙台市立長町中学校校舎等増改築工事）
（参事兼学校施設課長 説明）
資料に基づき説明
原案のとおり決定
- (5) 工事請負契約の締結に関する件
（仙台市立西中田小学校校舎及び屋内運動場長寿命化改修工事）
（参事兼学校施設課長 説明）
資料に基づき説明
原案のとおり決定
- (6) 工事請負契約の締結に関する件（仙台城跡本丸北西及び酉門石垣復旧工事）
（文化財課長 説明）
資料に基づき説明
原案のとおり決定

6 閉 会